

母の 651 ひろば

doshinsha / haha no hiroba

ぼろり家族⑨／落合由利子 2

おだんご先生の親子でつくろう！季節の和菓子③／芝崎本実 3

ドイツの記憶の文化と記憶のカタチ／岡裕人 4

紙芝居ベストセレクション第3集が発売されました！ 6

新刊紹介／いしかわこうじ、嶋村映利佳 7

イラスト／竹上妙



「ふつうのおんなの子」のちから 中村桂子

「ふつうのおんなの子」。今大事にしている言葉です。なんだか頼りなく聞こえるでしょうか。この言葉には、権力やお金に振りまわされず、過度な競争に巻きこまれず、毎日をていねいに楽しく生きようという気持ちをこめています。

子どもの頃をふり返ると、私はまさに「ふつうのおんなの子」でした。原っぱでとってきたアカマンマやネコジャラシをおままごとの御飯にし、お友だちやお人形と遊んでいた日の青い空や柔らかな陽ざしが思い出されます。今やおままごとではなく、家族のための食事の支度をしなければならなくなりましたが、気持ちは同じ、穏やかに過ごせることが一番ありがたいと思って毎日を送っています。

もちろん、社会には眼を向けなければなりません。そこでは、こんなことがあってよいのかと思うことがたくさん起こり、穏やかに暮らすのを難しくしています。その最たるものが戦争です。人間の歴史は戦争の歴史と言ってもよく、戦争のない社会にしましょうなどと言えば、世間知らずと馬鹿にされそうです。でも「ふつうのおんなの子」は戦争は嫌いなのです。太平洋戦争が終わったのが小学校4年生の時でしたので、空襲や食糧難など悲しい思い出もあります。

そう思っていた時、あの哲学者カントが最晩年に書いた本が『永遠平和のために』（池内紀訳／集英社）だったと知って嬉しくなりました。とてもわかりやすい言葉で大事なことがたくさん書かれています。「地球は球体であって、どこまでもはてしなく広がっているわけではなく、かぎられた土地のなかで、人間はたがいに我慢し合わなくてはならない」「殺したり、殺されたりするための用に人をあてるのは、人間を単なる機械あるいは道具として他人（国家）の手にゆだねることであって、人格にもとづく人間性の権利と一致しない」。その通りだと思いませんか。

とことん考え抜いた人と同じことを思っているなんて、「ふつうのおんなの子」も捨てたもんじゃない。この気持ちを素直に表に出そうと改めて思いました。お母さんだったり、おばあさんだったり、先生だったり……。みんないろいろな役割を持っていますけれど、心の奥にある「ふつうのおんなの子」を忘れないようにしましょう。もちろんお父さんやおじいさんにも同じ気持ちはあるに違いありません。だってカントは男性なのですから。

（なかむら けいこ／生命誌研究者）



2018.6.28
森林公園（埼玉）にて

おちあい ゆりこ／写真と文章を手がけた著書に『働くこと育てること』（草土文化）『絹ばあちゃんと90年の旅 幻の旧満州に生きて』（講談社）、共著に『若者から若者への手紙1945→2015』（ころから）他がある。写真展多数。人に寄り添う取材を続ける。

9 ぽろり家族

写真家の落合由利子さんが、さまざまな家族の「ぽろり」と垣間見える素顔に出会っていきます。

写真・文

落合由利子

なんでだろう

森の中の広いじゃぶじゃぶ池で、大胆に遊ぶ、なんだか「かっこいい」家族に声を掛けた。

二歳になったばかりの環たまきくんの母、愛さんは高校まで本気でバレーボールをやっていたそう。祖母、玲子さんは現役で働いているという。納得しつつ「仲が良いですね」と言つと、「ずっと良くなかったんです」と愛さん。玲子さんはシングルで愛さんを育てながら、自身の祖母、そして両親を自宅で介護した。家のなかは長い間ぎすぎすしていたという。

「仲が良くなったのは、環が生まれてから。なんでだろう、幸せなものを一緒に見ているからかな」愛さんは空に向かって答えているかのように思えた。

おだんご先生の

親子でつくろう！

季節の和菓子③

手作りあんこ(こしあん)

芝崎本実

●材料(こしあん約180g分)

小豆 100g
グラニュー糖 100g

まんじゅう、どらやき、^{ようかん}羊羹——和菓子にあんこは欠かせません。新豆の小豆が出回る秋は、皮がなく子どもが食べやすいこしあんにチャレンジ！



イラスト／二木ちかこ

しばさき もとみ／管理栄養士、帝京平成大学教員。
「おだんご先生」として、和菓子の魅力を発信。「おだんご先生のおいしい！ 手づくり和菓子」も発売中。

●作り方

マークの手順は、ぜひ親子でいっしょに！

① 洗った小豆を鍋に入れ、小豆の1cm上まで水を注ぐ。

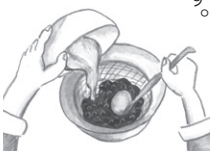
② 強火でゆで、沸騰したら水200mlを入れ、湯の温度を下げる。

③ 再沸騰したらザルにあけて湯を捨て(渋切り)、小豆を鍋に戻して3cm上まで水を入れ、強火でゆでる。

④ 小豆の頭が出ないように時々水を加えながら、芯がなく、指で軽くつぶせるまで強火で数十分煮る。

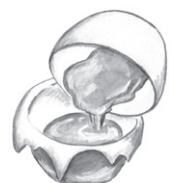
⑤ 大きいボウルの上に小さめのザルを重ね、④をあける。

⑥ ボウルとザルを重ねたまま、ザルの中の小豆を、お玉や小さなボウルの底でつぶし、皮からあんを出す。



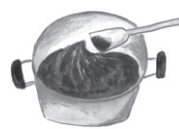
水をかけながらやると、皮に残ったあんもきれいに取り出せるよ。

⑦ ボウルの「あん+水」をさらし布巾でこし、絞って水気を切る。



⑧ 鍋にグラニュー糖と水150mlを入れて中火で溶かす。

⑨ ⑦を加え、へらで混ぜながら煮詰める。



冷めると硬くなるので、へらから落ちて山形になればOK！

⑩ あんをバットに移し、冷ます。



ラップに包み、冷蔵で1週間、冷凍で2〜3週間保存可能。

★次回は、あんこで栗むし羊羹^{ようかん}♪

●豆知識

和菓子には欠かせないあんこ。平安時代に中国から伝わった「あん(餡)」は、肉や野菜に塩味のついたものでした。肉食を禁じられていた当時の日本では、代わりに小豆を使うようになり、最初は塩味、国内で砂糖の生産が始まると甘くなりました。日本人のアイデアと繊細な技が生み出した大切な食文化です。



バイエルン地区の街灯の看板。ネコの絵の裏はユダヤ人にペットを禁ずる差別法。

虐殺されたヨーロッパのユダヤ人のための記念碑

「生への列車」と「死への列車」に分かれて向かった子どもたちの像

おか ひろと／一九六二年兵庫県生まれ。一橋大学大学院修士課程修了（社会学）。八九年渡独し、コンスタンツ大学大学院博士号取得（社会学）。ベルリンの壁崩壊以後、ドイツで歴史研究と教育に携わってきた。現在ランクトルト日本人国際学校事務局長。著書に『忘却に抵抗するドイツ』（六月書店）、『ホロコーストの記憶を歩く』（子どもの未来社、共著など）。

岡裕人

ドイツの 記憶の文化と 記憶のカタチ

◆戦争への向き合い方——日本とドイツ

戦後七十年を迎えた二〇一五年、ドイツのメルケル首相が来日し、共通点の多いドイツと日本が異なる点として、過去の戦争責任に対する取り組みを指摘しました。ドイツは過去の戦争責任に正面から向き合い、被害を与えた国々と和解する努力を長年続けてきた結果、今ではかつての敵国と信頼関係を築き上げました。メルケル首相は、日本とアジア諸国の関係について述べる代わりに、ドイツの例を参考にしよう訴えたのです。

しかしこのドイツにも第二次世界大戦後二十年以上もの間、戦争責任をあいまいにする時代がありました。ヒトラーとナチスの高官に戦争責任を押し付けたのです。ところが一九六〇年代末、ドイツで学生が政治や社会を批判する運動が広がります。特に戦争を直接体験した親の世代にその戦争責任を厳しく問い正しました。「あなたたちはヒトラーとナチスを支持したではないか」と。「六八年運動」とよばれるこの学生運動をきっかけ

に、国を挙げて過去の戦争責任に真摯（しんし）に取り組むようになったのです。

◆記憶が文化を形作る

それでも常に「過去を忘れよう」とする動きが起こり、そのたびに故ヴァイツゼッカー大統領が戦後四十一年の国会演説で述べた「過去に目を閉ざす者は、現在にも盲目となる」という言葉が、繰り返し思い起こされてきました。

一九九〇年、戦後分断されてきた東西ドイツがついに再統一を果たします。これに続き東欧諸国が自由を求めて次々に革命を起こしました。こうした変革が起こったヨーロッパで、それぞれの国が改めて「自国の記憶」と取り組むようになりました。「記憶がその国や時代の文化を形作る」ところえ、過去の出来事について、記録や展示、記念碑、記念日や式典など、出来事の記憶にまつわるものを総合して「記憶の文化」とみなす考え方が生まれたのです。ユネスコも「世界記憶遺産」の事業を始め、二〇〇九年には

『アンネの日記』が登録されました。

過去の戦争の記憶を決して忘れないように、どのようにこの記憶を広め、未来に伝えていくのか。再統一したドイツで、「記憶は文化となる」という発想のもとに、いろんなカタチで記憶が新たにアピールされるようになりました。

◆ベルリンの記念碑

特に統一ドイツの首都ベルリンには、戦争やホロコースト（ナチスによるユダヤ人迫害、民族虐殺）の記憶を表現する記念碑が多く作られています。ドイツ市民だけでなく世界中から集まる人々に、人類の記憶として広め、未来に伝えていくことを期待しているのでしょう。

ベルリンの中心、統一ドイツのシンボルの国会議事堂やブランデンブルク門の近くに、「虐殺されたヨーロッパのユダヤ人のための記念碑」があります。サッカー場の約三倍もある広大な敷地に、石棺を思わせるコンクリートの物体が二七一一基も並んでいます。まさに数百万にのぼるユダヤ人犠牲者の墓地を表しています。その地面は波打ちながら中央にくぼくほど深く沈み、石棺もだんだん背が高くなっています。この波打つ石棺の迷路をさまよいくことで、迫害から逃げ惑うユダヤ人のさまを体で感じてもらいた

い、と設計者は考えたのです。

◆日常のなかの迫害

他方、静かな住宅街「バイエルン地区」ではまったく違った記憶の見せ方をし、地区全体がユダヤ人迫害の「記憶の現場」となっています。この住宅街を歩いてみると、あちこちの街灯にシンボル看板がかかっているのに気づきます。看板の表側にはありふれた「モノ」が描かれ、裏側にはそれに関連するユダヤ人差別の法が記されているのです。

たとえば「ネコ」の看板の裏には「ユダヤ人はあらゆるペットを飼ってはいけない」、「パン」の裏には「ユダヤ人は食料品を午後四時から五時までしか買ってはいけない」とあります。遊具のある公園のそばに「けんけんば遊び」の図を描いた看板があり、その裏には「ドイツ民族と非ドイツ民族の子どもはいっしょに遊んではいけない」と書かれています。

こうしたシンボル看板は、ナチスがユダヤ人の日常生活を法律によって事細かく制限し、自由や人権を奪ったことを表しています。ナチ政権（一九三三～四五）が出した二千ものユダヤ人差別の法から約八十を選んで看板にし、地区全体に掲げているのです。

ホロコーストと言えば、たいていアウ

シュヴィッツ（強制収容所）で何百万人もガス室で殺害されたことをイメージします。しかし、ナチスはユダヤ人の日々の生活でじわじわと自由を奪って迫害していった、そのことについて記憶してほしい、とシンボル看板の作者は訴えています。ありふれた「モノ」と異常なユダヤ人差別の法、このアンバランスにより強く記憶に残る工夫をしているのです。

◆子どもを連れて行く、二つの列車

戦争ではいつも子どもが犠牲になります。ベルリンの繁華街の駅前には二組の子どもの像が立ち、「ホロコーストと子ども」を記憶しています。この子どもたちはプラットホームでそれぞれ反対方向に歩き出しており、かたや「生への列車」に、かたや「死への列車」に乗ろうとしています。

一九三八年秋にドイツ帝国全土で一斉に起こったユダヤ人大迫害事件をきっかけに、国外のユダヤ人団体が何とか子どもたちだけでも救い出そうと、イギリスへ子どもを亡命輸送しました。しかしイギリスへと向かう「生への列車」に乗れた子どもは限られ、多くは強制収容所へと向かう「死への列車」に乗ることになったのです。「生への列車」に乗れた子どもたちも亡命先で孤児となり、つらい

人生が待っていました。この像の作者も「生への列車」に乗った一人でした。

◆障がい者の犠牲

ホロコーストの犠牲になったのはユダヤ人だけではありません。ナチスは極端な優生思想（「優良」とみなした遺伝素質だけを残そうとする考え）により、障がい者を生きる価値のない者とし、ベルリンの本部から全ドイツの精神病院や養護施設に命じて、障がいの重い者を「安楽死」殺害しました。特に女性が犠牲となり、殺されなくても強制的に不妊手術を受けさせられました（ナチスと直接関係のないものの、多くの国で戦後も優生保護の目的で強制不妊手術が行われてきました。日本でも現在その国家補償が問題となっています）。

「安楽死」政策で各地の病院から障がい者を殺害施設に送るバスをかたどった記念碑『グレーのバス』が、ベルリンを出発点にしてドイツ各地で移動展示されています。

「記憶」は過去の遺物ではありません。現在や未来に向けたメッセージがこめられており、それを受け止めた人の思いも加わって、その時代、その社会をつくる文化となります。それゆえに、私たちには「記憶」を伝えていく責任があるのです。

	<p>『つきよとめがね』12場面</p> <p>小川未明／原作 堀尾青史／脚本 遠藤てるよ／絵</p> <p>月の美しい晩、めがね売りにめがねをもらったおばあさんは……。</p>
	<p>『てんぐのはなくらべ』12場面</p> <p>堀尾青史／脚本 岡野和／絵</p> <p>青てんぐが、鼻をお城まで伸ばすと、立派な着物がかかってきた。</p>
	<p>『チボリーノのぼうけん（前編）』12場面</p> <p>ジャンニ・ロダーリ／原作 木村次郎／脚本 岡本武紫／絵</p> <p>たまねざ小僧チボリーノは、横暴なトマト騎士たちに立ち向かう。</p>
	<p>『チボリーノのぼうけん（後編）』12場面</p> <p>ジャンニ・ロダーリ／原作 木村次郎／脚本 岡本武紫／絵</p> <p>捕まったチボリーノを助けようと、さくらんぼうやたちは知恵を絞る……。</p>
	<p>『これなあに』8場面</p> <p>神沢利子／脚本 佐野洋子／絵</p> <p>みいちゃんのよだれかけが、ねずみさんのところへ飛んでいって……。</p>
	<p>『いちにのさっちゃん』12場面</p> <p>かこさとし／脚本・絵</p> <p>鬼ごっこやかくれんぼで遊んでいたら、鬼になった子が泣きだしちゃった。</p>
	<p>『たんぱりんじゃじゃん』8場面</p> <p>八木田宜子／脚本 和歌山静子／絵</p> <p>じゅんちゃんがタンパリンをジャジャンと鳴らすと、トトンと音がして……。</p>
	<p>『へんてこおじさん』16場面</p> <p>前川かずお／脚本・絵</p> <p>たかしが公園で会ったおじさん。ちょうをパクンと食べたかと思うと……？</p>
	<p>『おもちゃおばけ』12場面</p> <p>古山広子／脚本 福田庄助／絵</p> <p>少年かんたは、お父さんと、人が消えるという宿屋の部屋に泊まりました。</p>
	<p>『たこやたごさえもん』16場面</p> <p>水谷章三／脚本 藤田勝治／絵 松谷みよ子／監修</p> <p>金持ちと勘違いされ、長者の娘を嫁にもらうことになったたごさえもんは……。</p>

紙芝居 ベストセクション 第3集

が発売されました！

童心社の紙芝居の歴史のなかから、復刊の要望が高く、優れた作品を集めて刊行されてきた「紙芝居ベストセクション」。未来へ伝えたい名作選として好評を博しているシリーズに、今夏、待望の第3集が加わりました。

一九八〇年代までに出版された珠玉の作品のなかから、昔話に冒険活劇、笑い話や音を楽しむ紙芝居など、年少さんから小学生まで楽しめる、バラエティ豊かなラインナップが揃いました。

復刊にあたっては、刊行時期が古い作品は製版をやり直し、現在の印刷技術でより美しい色合いを追求。脚本も、より演じやすいよう、分がち書きや改行、行間などを調整し、演出ノートも分かりやすく改めました。

紙芝居の舞台を開けば、子どもたちの前に新しい世界が広がる、特別な作品です。ぜひ「第1集」「第2集」とあわせてお楽しみください。

紙芝居
ベストセクション第3集
(全10巻)

セット定価 | 本体 18600円＋税

各定価

本体 1400円＋税 (8場面)
本体 1900円＋税 (12場面)
本体 2200円＋税 (16場面)

BOOK

「おでかけ版」で、
赤ちゃんにエール！

いしかわこうじ

おでかけ版
いしかわこうじ
しかけえほん
いしかわこうじ／作・絵
本体価格各 1000 円＋税



おでかけ版
たまごのえほん



おでかけ版
はなのさくえほん



おでかけ版
みんな とぶよ！

「いしかわこうじ しかけえほん」は、「誕生、成長、飛躍」をテーマに、美しい色と形、やさしい言葉で表現した、楽しいしかけ絵本シリーズです。2009年『たまごのえほん』の発売以来、たくさんの赤ちゃんに親しまれ、その健やかな成長にエールを送ってきました。このたび、持ち歩きに便利な「おでかけ版」が生まれました。

『たまごのえほん』は、卵の殻がパリッと割れて、赤ちゃんが生まれてくる感動を体感できる絵本です。“ページが3方向に開く”というこれまでにないしかけを思いつく事で、実現できました。『はなのさくえほん』は、しかけページを上へ上へとめくると、種から芽が出て、すくすくと育ち、見事な花を咲かせます。登場する花は全て、我が家で種や球根から育ててみましたので、シンプルながらもリアルな描写ができました。『みんなとぶよ！』は、しかけページを上や横にめくっていくことで、大空に舞うダイナミックな爽快さを体感できます。自宅ベランダから見る、鳥たちの自由に飛ぶ姿に触発されて制作しました。

どの絵本も、妻や子ども達との暮らしの中で見つけた“絵本の種”を大事に育てながら、僕自身も本当に楽しんで作りました。しかけページをめくると、きっと笑顔と出会えます。大切なお子さんと一緒に、永く楽しんでいただけたら幸いです！

(石川浩二／絵本作家)

「息子が喜んで興味津々で見えていました」「見ているとおなかがすいてきました」これは東近江市立八日市図書館で開催した、いわさゆうこさんの原画展に寄せられた感想の一部です。カウンターに来た男の子が、「キャベツが好き」とお気に入りの絵を教えてくれることもありました。年配の女性からは「原画を見てから家の野菜をよく見たら、同じ根の生え方をしていた驚いた」とお声をいただきました。日頃、野菜を育てている人も納得させる深い観察力で描かれた、豊かで細やかな野菜たち。「いわささんの絵本は、子どもはもちろん、大人が読んでも気づきがあり、楽しめるのだ」と改めて感じました。

さて、新刊『ごろりん たまねぎ』を、私も実家で採れた「きいろたまねぎ」と比べながら読みました。ぱりぱりの皮をめくると顔を出す、まっしろなぴかぴかたまねぎ。ページを進めると、ちいさな種からちょこんとかわいい芽が出て、どんどん葉っぱが伸びていく、たまねぎの成長過程を知ることができ、目の前のたまねぎも「がんばってこうして大きくなったんだなあ」とたくましく感じました。「わしゃわしゃ」「ぼっくり」「ぶくん」。絵に添えられたことばからも、たまねぎの愛らしさが伝わってきて、読み終わったときには、私もおなかがすいてしまいました。たまねぎのいのちがあふれだす1冊です。(しまむら えりか／東近江市立八日市図書館司書)



どーんと やさい
ごろりん たまねぎ
いわさゆうこ／さく
本体価格 1100 円＋税

あふれだすいのち

嶋村映利佳

BOOK

読者の声

毎晩おやすみ前の絵本の読み聞かせは親子の大切なひとときです。主人が「14ひきの本は、あったかい気持ちになれるよね」と子どもと話していたのを聞いて、このシリーズの素晴らしい家族みんなで共有しているんだな、とうれしくなりました。

(岐阜県 C・K 三三歳)



14ひきのシリーズ
14ひきのこもりうた
いむらかずお／作
本体価格1200円＋税

よく子どもの頃に両親に読んでもらいました。ゲラゲラ笑っていましたが、今になってはこれぞ仕事の根本だとも思いました。得意分野を生かして、困難を乗り越えていく姿は現代の仕事で絶対に必要になる知識です。笑いながら、楽しく問題を共有し、全員で解決していく、その工程がこの本に話まっています。この本に出会えたことが、私の人生の原点です。

(三六歳)



童心社の絵本 そうべんシリーズ
じごくのそうべん
田島征彦／作
本体価格1400円＋税



イラスト／竹上妙

「じんばい」「むよう」のシリーズが大好きな息子と楽しく読むことができました。「めろんごろん」をはじめとした心地よい繰り返しリズムが息子もお気に入り、一緒に言葉を楽しくしていました。ばななくんなどいままで読んだ果物が登場する楽しみもあり、一つ一つ指さしては喜んでいました。

(栃木県 M・N 三三歳)



おいしいもたち
めろんさんがね・
とよかずひこ／さく・え
本体価格850円＋税

初めて図書館で借りて、この本を読み聞かせました。すると「にやあにや」と「くまちゃん」の所が特に気に入ったみたいで、何度も「読んで」と伝えてくれるようになりました。私もくまの顔は笑ってしまいます。本を返す時「あーあ」と声を出し返したくない様子で、その足で本屋へ行って購入し、お気に入りの第一号になりました。

(愛知県 M・H 三〇歳)



松谷みよ子 あかちゃんの本
いないいないばあ
松谷みよ子／ぶん 瀬川康男／え
本体価格700円＋税

あとがき

●「どんな国も、それぞれの“正義”をふりかざして戦争をしてきましたし、いまもしています。“正義”とはじつに便利な言葉で、国家の数だけ、あるいは人間の数だけあるとも言えます(手塚治虫『ガラスの地球を救え』より、光文社)——観念に弄ばれず、自分の肉体や生活実感に即して物を考えていく。それが「普通」の男の子の道でしょうか。◎

●戦争のことを考える夏ですが、今夏は、地震や豪雨、酷暑などの災害にも思いを致さざるをえません。戦争は人災の最たるものと心に刻む一方で、天災へのやりきれない思いは消えません。しかし災害も、戦争と同じく、記憶を残し、伝えることができます。そして教訓を素直に受け止める「ふつうのおんなの子」の気持ちもまた、重要だと思うのです。▲

2018年8月15日発行(毎月刊)
母のひろば 第651号
定価50円(年600円／送料とも)

発行所：童心の会
〒112-0011 東京都文京区千石4-6-6
株式会社童心社内
電話：03(5976)4187
03(5976)4402(編集)
編集発行人：大熊悟
童心社のホームページ：
<https://www.doshinsha.co.jp/>
デザイン：谷口広樹

定期購読のご案内

おハガキにてお申し込みください。下記QRコードからもお申し込みいただけます。見本誌(無料)と振込用紙をお送りいたします。

見本誌に同封されている振込用紙で購読料をお支払いいただけますと、手続き完了となります。購読料金は1年分600円(送料とも)。

